

平成26年度

第2回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会

議事録

日時 平成26年 11月21日(金)
13時30分 から 15時45分 まで

場所 北浦和ターミナルビル 3階
カルタスホール 第2会議室

出席者 会長 柳井 重人
委員 坂田 澄代
委員 八木澤 順治
委員 中澤 佑子
委員 池上 憲二
委員 黒岩 修
太田 久(委員 能勢 和彦 代理)

事務局 都市計画部長
みどり推進課長、三角係長、町田係長、
益戸主事、船本主事

■ 平成26年度第2回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会 議事録

平成26年11月21日(金) 13:30~15:45

発言者	意見内容
議題 さいたま市緑の基本計画後期アクションプランの策定について	
事務局から、さいたま市緑の基本計画後期アクションプランの策定について、「資料1」に基づき説明	
柳井会長	第1章について意見はあるか。5ページの「担保性のある緑を市域の35%以上確保します」の「担保性のある緑の水準の推移」に平成25年度の数値が入っていないのは確定できないということか。
事務局	数値については、現在、精査中である。 ただし、一部、正確な数値を把握することが難しい項目もあるため、記載内容については今後検討していきたい。
柳井会長	6ページに記載されている「緑のオープンスペース」について、5ページの「担保性のある緑」の中のどの項目にあてはまるのか、わかるようにしてほしい。
黒岩委員	8ページによると、市民意識調査の評価は30%程度である。この結果をどのように評価するのか。30%という数字を高いと評価するのか低いと評価するのか、この記載内容だけでは評価しにくい。
事務局	「さいたま市のどのようなところに魅力を感じていますか」という質問に対して「都心に近い」「交通の便がよい」など、さまざまな選択肢の中から合致すると思う項目を複数選択できるようになっている。「自然が豊富」というのはその中の1つの選択肢となっている。 「さいたま市にどのようなイメージを持っていますか」という質問に対しても同様で、さまざまな選択肢の中の1つとして「自然の豊かなまち」という項目がある。
黒岩委員	この記載内容では、市民の30%しか自然が豊かと感じていないというマイナスな印象を与える可能性があるので、記載方法を工夫したほうがよい。
柳井会長	他にも多くの選択肢があり、その中の1つの回答であることがわかるように記載してほしい。
黒岩委員	「緑の目標水準」の現状値として、細かい数値ばかりが目立ってしまうと緑の基本計画そのものの価値が薄れると思う。緑の基本計画では緑の将来像や基本方針を掲げており、その指標の1つとして「緑の目標水準」を位置づけているということがわかるようにしたほうがよい。
柳井会長	9ページで、前期アクションプランでは「特に短期に取り組むべき施策」を位置づけているようであるが、これはどういった意味か。
事務局	緑の基本計画(改訂版)を策定し、その後、前期アクションプランを策定しているが、緑の基本計画で位置づけている「推進施策」の中から「特に短期に取り組むべき施策」を選定したということである。したがって、前期アクションプランでは緑の基本計画で掲げているすべての「推進施策」が掲載されているわけではない。後期アクションプランは緑の基本計画の総仕上げとなる計画であるので、目標年次の平成32年度に

発 言 者	意 見 内 容
	向けてすべての「推進施策」についてアクションプランに位置づけて進めていくということである。
柳井会長	<p>そういった位置づけの違いがわかるような記載をしてほしい。</p> <p>第2章に移りたい。13ページであるが、平成32年度を目標年次としている後期アクションプランでは「何を大切にしていきたいのか」という考え方を「視点」という言葉で表記している。</p>
黒岩委員	「視点」というよりも要するに方法論であろう。「視点」というと主体が誰なのかがわかりにくい。
事務局	<p>「視点」という用語にこだわりはない。後期アクションプランの策定にあたり、各アクションプラン事業の中で特に力を入れていきたい事業、あるいは中心的な位置づけとなりうる事業を頭出しする意味で設定した。2つの視点を今後大切にしていきたい考え方として事業を展開し、最終的には「身近に実感できる緑」を増やすということを目指していきたいということである。</p>
池上委員	<p>「身近に実感できる緑の創出」を目指していくという方向性は良いと思う。</p> <p>現実的には量的に緑を増加させていくことは難しい現状にあることは理解している。そういった中で市民がどれだけ身近に緑を実感できるかが重要となってくる。つまり8ページの市民意識調査の評価が上がってこないといけないのである。ただし、「視点」が13ページに記載されている2つだけなのかということはやや気になる。「こんな緑をつくる」という宣言的なものを1つ挙げてもよいのではないか。</p> <p>例えば、現在、みどり推進課で行っているみどりの街並みづくり助成制度の見直しや、公共施設の緑化などは「身近に実感できる緑の創出」につながるが、これらはみどり推進課の頑張りで進めていける事業であり、せめてこういった事業について、「ここまでやる」といったニュアンスの視点があっても良いと思う。</p>
柳井会長	<p>「身近に実感できる緑の創出」を目指すという背景には、これ以上量的な緑を増やすことが困難であるということがある。また都市計画マスタープランで掲げている「さいたま市が目指すまちの姿」にもかかわってくる。</p> <p>具体的にはどのような緑があれば身近に緑が多いと実感できるのか、それは単に物理的に緑があるという存在そのものなのか、それとも緑の価値や豊かさなのかという問題もある。</p>
八木澤委員	市街地や住宅地における街並みの連続した緑のイメージに偏っているように感じる。郊外のまとまった緑、あるいはスポット的な緑でも実感できる場合もある。
黒岩委員	緑の重要性が日常の市民生活に密接に関係していることが表現できるとよい。
池上委員	さいたま市には郊外にはまとまった緑が多いと感じているが、駅前には少ないと思う。郊外の遊びに行く場所には緑があるが、日頃、通勤・通学で利用する場所に緑が少ないように思う。

発 言 者	意 見 内 容
黒岩委員	<p>駅前や幹線道路沿いなどは市民の目につきやすくアピールポイントになる。市民をお客様として、お客様線目線にとらえることが必要ではないか。</p>
太田代理	<p>前期アクションプランの問題点を踏まえた上で枠組みを構成していくのが後期アクションプランであると理解している。しかし、前期アクションプランにおいて、順調に進捗している事業やそうでない事業などの課題が整理されないまま「視点」を設定したり、目指す方向を掲げている気がする。</p> <p>後期アクションプランの具体的な事業として66事業が設定されているが、この設定の考え方がよくわからない。前期アクションプランの5年間の取り組みを振り返るという要素が足りない気がする。</p>
柳井会長	<p>「緑の目標水準」の現状を踏まえて後期アクションプランにつなげていくべきであるが、それが書かれていないということ。また前期アクションプランの具体的な事業の総括がないという指摘である。</p> <p>例えば10ページの後ろに前期アクションプランの課題整理の記載が必要であろう。11ページでは、時代の変化を踏まえた上での目指す方向が出てくる。一見すると、量的な不足を踏まえてこれからは身近に実感できる緑を創出するという流れになっているが、それらが明示的には書かれていない。やはり総括や評価の記載が必要である。</p>
太田代理	<p>それは8ページの市民意識調査の結果の記載内容にもいえる。「3割」という結果だけが記載されていて、この結果をどう捉えるのか、そしてそれを今後どう生かしていくのかという考え方が必要である。</p>
事務局	<p>10ページが前期アクションプランの達成状況のみの記載となっているので、その後に1ページ追加して達成状況の評価と課題を記載するなどもう一度整理したい。</p>
黒岩委員	<p>4つの基本方針ごとの評価も必要である。</p>
柳井会長	<p>「遅れ」が8事業しかなく、前期アクションプランの取り組みとしては順調であるはずなのに、なぜ「緑の目標水準」の達成状況は良好ではないのかという矛盾が出てきてしまう。</p>
太田代理	<p>前期アクションプランでさまざまな事業を推進してきたが、市民意識調査では3割しか評価されていない、だからこれからはより積極的に情報発信していきたい、そして緑にかかわる主体を企業や各家庭まで広げていきたいという「視点」そのものの考え方は良いと思う。しかしながら、その結論に至るまでのプロセスの記載が不足している。</p>
八木澤委員	<p>11ページに「時代が求める緑と緑豊かなまちづくり」とあるが、市民はどのような緑を望んでいるかということ把握しているのか。それによってこれから重点的に行うべき方向性も変わってくると思う。</p>
柳井会長	<p>本格的な市民アンケートは、緑の基本計画の改定時などのタイミングでないと予算の都合等もありなかなかできないであろう。しかし常に市民の声を聞き、それを施策に反映させていくという姿勢は大切である。</p>
事務局	<p>この市民意識調査は毎年実施しているものであるが、緑に関するものではないので、市民がどのような緑を求めているかについては正確には</p>

発 言 者	意 見 内 容
	<p>把握していない。</p> <p>次回の緑の基本計画の改訂時には市民のニーズを把握するために緑に関する意識調査を実施することは当然必要と考えている。</p> <p>さいたま市は見沼たんぼなどまとまった緑は豊かである。それをもっと市民に認識してもらい、それを活用していくことは必要であると考えている。</p> <p>「防災」という視点からも公園や緑地の重要性を認識しており、それを積極的に確保していく方向で動き始めている。またお客様目線で考えると、さいたま市を訪れた人が広い範囲で行動できる仕組みをつくるために、自転車を使ったまちづくりを進めている。さいたま市に住んでいる人に対しては、歩いていける範囲に身近な公園をつくるなど、市民目線に立ったまちづくりをしていくという考え方は持っている。それが市民に実感してもらえるようにしていきたい。</p>
柳井会長	<p>今の話が11ページの(2)に書かれているとよい。市民目線に立ったまちづくりを行っていくといった記載が書かれているとよいと思う。</p> <p>例えば「防災」という視点から見ると「安全が実感できる」ということである。</p> <p>また、物理的な緑の存在そのものを実感できるというだけでなく、緑の大切さや価値が実感できることが重要であろう。実感できる場を提供すること、さらには実感できる機会をつくることも重要である。実感させる側となる市民や企業を増やしていくことも必要な要素である。それが多くの人がかかわること(多様な主体)につながる。</p> <p>例えば「視点1」の事業例として記載されている「緑に関する活動や資源の地図化」も地図をつくることそのものが「身近に実感できる緑」につながるのではなく、その地図を持って歩く機会を提供したり、あるいは市民ボランティアが地図に載っている名所を案内するといったようにどう活用していくかが重要な考え方である。</p> <p>16ページ以降のアクションプラン事業の表に「視点」の欄を新たに設けた意味合いは何か。</p>
事務局	<p>各所管課に対して緑の基本計画の目的の達成に向けて意識づけを図るということで示している。</p>
太田代理	<p>この表をより効果的にするには、例えば表の中に前期アクションプランの達成状況などを矢印などで表記してはどうか。</p> <p>市民から注目されるような表記にしたほうが、平成32年度に緑の基本計画を改訂するにあたって、よい意味でさまざまな意見をもらうことができる。</p>
事務局	<p>各アクションプラン事業の目標は各所管課自らが設定しているものであり、達成状況の評価もその枠組みの中で行っているものである。次回の緑の基本計画の改訂の際には、市民が求めるものを把握し、市民が目標設定をするような仕組みをつくっていかないと、本当の意味で「身近</p>

発 言 者	意 見 内 容
	<p>に実感できる緑の創出」につながっていないと思われる。</p>
柳井会長	<p>各アクションプラン事業については関係所管課との調整も必要であると思われるのでこの場で結論は出せないが、委員からの提案について趣旨を汲み取ってもらい、再度検討してほしい。</p> <p>59ページの第4章について、「市民の意見を聴く機会」とは例えばどのような方法を考えているのか。</p>
事務局	<p>例えば、無作為抽出の市民に対して、緑に関するアンケートを実施することなどは行いたいと考えている。また、区民会議や公開審議などの場に出向いて、できるかぎり市民の声を聴く機会をつくりたいと考えている。</p>
<p>(15時45分 終了)</p>	